

大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 2653 号 2015.9.29 発行

日本理化学工業はなぜ知的障害者を雇うのか 幸せを提供できるのは福祉施設ではなく企業
東洋経済オンライン 2015年09月29日



知的障害者が教えてくれた、楽しいことばかりではないのに働く理由とは？

創刊以来、Woman type は「女性のキャリア」について考えてきました。女性が長く働ける基盤を作ろうと、社会全体が動いているものの、女性が仕事を頑張り続けるのは、まだまだ簡単なことではありません。

そこで4周年記念特集では、「女性が働く理由」にとことん向き合うことにしました。女性が長く仕事を続けることが、まだ当たり前とはいえない日本。だからこそ、「なぜ働くのか」を考えるチャンスとも言えます。一般論やキレイ事ではない“自分にとっての働く理由”は、これからの人生を導く指針となってくれるはず。一緒に見つけていきましょう。

同情心からスタートした障害者雇用

本記事は Woman type (運営：キャリアデザインセンター) から
の提供記事です



私が会長を務める日本理化学工業はチョークの製造メーカーで、全80名の社員のうち、7割を超える60名が知的障害者。しかも、そのうち半数近くが「重度」に該当します。

そう聞くと皆さん驚かれるのですが、知的障害者が主力でも、チョークの品質や生産性は業界トップクラス。数字が苦手な知的障害者でも正確に分量・サイズを測れる道具や、作業時間を短縮できるような段取りを工夫した結果、川崎の工場ではJIS規格をクリアした高品質のチョークを1日に10万本製造しています。

知的障害者の雇用を始めたのは、今から50年以上前のこと。当時会社の近くにあった養護学校の先生から「生徒の就職をお願いしたい」と頼まれたのがきっかけでした。今でこそ私は障害者雇用に積極的ですが、当時は世間の多くの人たちと同様、知的障害者に対して偏見を持っていましたから、就職はお断りしました。

でも、その先生はあきらめなかった。3度目に来られた時、「もう就職させてくれとは言いませんから、働く体験だけでもさせてくれませんか」と前置きしたうえで、こうおっしゃったのです。「もし就職しなければ、この子たちは卒業後、施設に入ることになります。そうなれば、一生“働く”ということを知らずに人生を終えることになるのです」と。

ここでようやく私にも、「確かにそれはかわいそうだな」という気持ちが芽生えました。そして、2週間の就業体験を受け入れたのです。とはいえ、私の心にあったのは知的障害者への理解ではなく、あくまで同情にすぎません。だから2週間後には「ご苦労様、さようなら」と言ってこの件は終わりにしようと考えていました。

ところが就業体験に来た2人の女性は、とても熱心に働いてくれました。製品が入った箱にシールを貼るという簡単な作業でしたが、本当に真剣に取り組んでくれたのです。それを見たほかの従業員が、「こんなに一生懸命やってくれるんですから、雇ってあげたらどうですか。私たちも面倒を見ますから」と私に言ったのです。それで「2人くらいなら何と

かなるかな」と、翌年その女性たちを採用しました。それがわが社の障害者雇用のスタートです。

究極の幸せは「当たり前」の中にある

人間にとっての幸せが「仕事」の中にある

ただこの時点でも、私が知的障害者を雇ったのは決して前向きな理由からではなく、単なるなりゆきのようなものでした。その認識が大きく変わったのは、それから3年ほど経った時のこと。知人の法要に出席した際にその寺の住職と話をすることがあり、私はふと思いついてこんな質問をしてみたのです。

「うちの工場では知的障害者が一生懸命に仕事に取り組んでいます。施設に入って面倒を見てもらえば、今よりずっと楽に暮らせるのに、なぜ彼女たちは毎日工場へ働きに来るのでしょうか」

すると住職はこう答えました。

「人間の究極の幸せは4つあります。1つ目は、人に愛されること。2つ目は、人に褒められること。3つ目は、人の役に立つこと。4つ目は、人に必要とされること。だから障害者の方たちは、施設で大事に保護されるより、企業で働きたいと考えるのです」

その瞬間、私は自分の考えが根本的に間違っていたことに気づきました。人は仕事をして褒められ、人の役に立ち、必要とされるから幸せを感じることができる。仲間に必要とされれば、周囲と愛し愛される関係も築くことができる。だから、彼女たちはあんなに必死になって働こうとするのだと。

私は日ごろから従業員たちに、「今日もよく頑張ったね、ありがとう」と声を掛けていましたが、私にとっては、単なるあいさつにすぎませんでした。でも、知的障害者の方たちは、心からうれしそうな顔をするのです。健常者がごく当たり前だと思っていたことの中に、人間の究極の幸せが存在する。そのことに私自身が気づかされました。

それ以降、私は知的障害者の雇用を本格化させました。経営者として「人に幸せを提供できるのは、福祉施設ではなく企業なのだ」という信念を持つようになったからです。今の日本理化学工業があるのは、知的障害者の従業員たちが導いてくれたおかげ。私や健常者の社員たちの方が、「働く幸せ」とは何かを知的障害者から教えてもらったのです。



働く喜びを知ることで、知的障害者たちが変わっていく姿もたくさん目の当たりにしてきました。

大山 泰弘（おおやま やすひろ）／1932年生まれ、中央大学卒業。父親が戦前に設立した日本理化学工業に後継者として入社。74年、社長に就任。60年に初めて知的障害者を雇用して以来、一貫して障害者雇用を推進。2008年より現職。著書に『働く幸せ 仕事でいちばん大切なこと』（WAVE出版）など

わが社では、「周囲に迷惑を掛けたら、就業時間中でも家に帰します」と約束しているのですが、ある男性はちょっと気に入らないことがあると暴れ出すため、就職から2年間で30回以上も家に帰されました。

親御さんには「本人の口から『もうしません』という言葉が出たら、翌日からまた会社に来ていいですよ」と伝えてあるので、しばらくすると彼も再び会社に来るのですが、結局はまた暴れてしまう。

それでも、最初は週に1度だったのが、やがて2週間に1度になり、1カ月に1度になって、間隔はどんどん伸びていく。私は彼が確実に成長していると感じました。そして今では、彼はまったく問題行動を起こさなくなり、それどころか後輩社員の面倒を見てあげるまでになったのです。

女性にとっては子育ても立派な“仕事”

彼が成長できたのは、やはり「働く幸せ」を求めていたからでしょう。家に独りぼっちでいると、「会社に行って役に立ちたい」「皆から褒められたい」といった欲求が湧き上がってくる。ある脳神経外科の教授は、その理由を「人間は“共感脳”を持っているからだ」と教えてくれました。



人間は一人では生きられない動物であり、群れの中で周囲に支えられて、初めて生きられる。そして支えてもらうためには、自分も周囲の役に立つことが必要になる。つまり人間は、「人の役に立つこと＝自分の幸せ」と感じる脳を持っているのだというのです。この話を聞いて、私はあの住職の言葉はやはり正しかったのだと、改めて実感しました。

もし皆さんが、仕事をしていても幸せを感じられないのなら、自分が働くことでどのように人の役に立てているのか、今一度見直してみてください。時には会社や上司に不満を抱くこともあると思いますが、仕事を通して誰かの役に立つことそのものが、自分自身の幸せにつながっているはずですよ。

ただ、女性が社会に出て働くことについては、少し違った思いもあります。

今年 83 歳になる私が、あえて本音を申し上げるなら、女性にとっては「子育ての役割」や「家族の生活を支える役割」を果たすことも立派な“仕事”であり、人の役に立つことなのだと思うのです。特に子育ては、日本という国を支える大事な国民を育てる仕事ですから、社会全体のために役立つ仕事でもあるわけです。

もちろん会社で働くことは意義のあることですし、世の中もそれを求めています。経済的な事情から、共働きを余儀なくされている人が多いことも分かります。ですが、「仕事と家庭は両立しなければならない」という思いが、どうも先行しすぎているように思うのです。

だからこそ若い女性たちには、子育てが大事な仕事であることをしっかり認識したうえで、将来をじっくり考えてもらいたい。どんな結論が出るにせよ、「自分はどんな形で人の役に立ちたいのか」を考えることが、きっとその方の人生を幸せへと導いてくれるはずですよ。(取材・文：塚田有香／撮影：竹井俊晴)

臨床心理士…悩みや悲嘆 一緒に解決

読売新聞 2015年9月28日

職場や家庭での人間関係の悩みや、親しい人を失った悲しみ……。心の安定を揺さぶる出来事をきっかけに、不安感やうつ状態が続いて耐え難くなった時、頼りになるのが臨床心理士だ。養成する大学院169か所のほとんどに心理相談室があり、専門性の高い心理療法を比較的安価で受けられる。

臨床心理士は日本臨床心理士資格認定協会の認定資格。今年成立した公認心理師法で、国家資格化される心理職の中心的役割を期待されている。大学院で2年間学び、筆記と面接の試験を受ける。1988年の認定開始以降、資格取得者は2万9000人を超える。

民間や大学院の心理相談室は、日本臨床心理士会のサイト「臨床心理士に出会うには」で検索できる。都道府県を選び、「発達障害」「引きこもり」「うつ病」など悩みの種類を選んで検索ボタンを押す。各施設のページには、臨床心理士の得意分野や料金などが記されている。民間の料金は1回5000～1万円程度が多いが、大学院は1回3000円前後。

臨床心理士の心理療法

心の不調に陥った時、頼りになるのが臨床心理士だ。専門サイトでは自宅近くの心理相談室を検索できる。複雑性悲嘆のケアなど、新しい心理療法に取り組み相談もある

臨床心理士とは…

日本臨床心理士資格認定協会が認定する資格。養成大学院で学び、試験を受ける。認知行動療法や家族療法、遊戯療法などの心理療法や心理テストを行う

砂の上に人形を並べていく箱庭療法



家の近くにある心理相談室を探す方法

日本臨床心理士会のサイト「臨床心理士に出会うには」(<http://www.jscpp.jp/near/>)で検索。都道府県や症状などを選択し、自宅近くの心理相談室を検索できる



カウンセリングの対象となる症状や病気、状態



発達障害、引きこもり、摂食障害、うつ病、神経症、犯罪被害、統合失調症、夫婦の対立、離婚、不登校・いじめ・学校不満足、依存症、職場の悩み、失婚の悲嘆 など

複雑性悲嘆

以下のような症状が1年以上続き、生活に支障をきたしている

- 故人の死を受け入れられない
- 故人を強く思慕、切望する
- 強い孤独感、空虚感がある
- 自分が生きているのが不公平で寂寥感を感じる
- 故人のことで誰かがいっぱいになる
- 死別や故人にまつわることを回避する

継続的なカウンセリングで
自責感や罪悪感、
自己否定感などを
和らげていく



複雑性悲嘆のカウンセリングに取り組む白井明美さん
(四国大学福祉人大学院の青山心療相談室で)

各大学院のサイトでも心理相談室の情報を確認できる場合が多い。

大学院の心理相談室は院生の勉強の場でもあり、通常は院生が対応する。カウンセリングの質を保つため、毎回の終了時に有資格者が評価、指導を行う。

手法は様々 臨床心理士が行う心理療法の手法は多い。「認知行動療法」は、カウンセリングなどを通じて過剰なストレスを招く考え方や行動の癖を修正し、問題解決を手助けする。「家族療法」は、本人だけでなく家族ぐるみで適切な対処法を工夫し、悩みの解決を図る。

子どもに対しては、言葉にできない心の葛藤を遊びを通して表現してもらう「遊戯療法」などを行う。砂の入った箱とミニチュア玩具を用いて心の中のイメージを表現する「箱庭療法」を大人に行うこともある。

臨床心理士にも実力の差があり、相性もある。学習院大教授で臨床心理士の伊藤良子さんは「遠慮なく何でも話せる臨床心理士を見つけてほしい」と話す。

新しい療法 国際医療福祉大大学院の青山心理相談室（東京都港区）では、死別などによる悲嘆が長期化して苦しむ人のケアにも力を入れる。臨床心理士の白井明美さんが取り組む「複雑性悲嘆」のケアは、実施例がまだ少ない新しい心理療法だ。

大切な人を亡くし、1年以上たっても悲嘆に暮れ、生活に支障が出ている人が対象。死を自分のせいだと決めつけたり、「自分だけが幸せになれない」と考えたりしてストレスを募らせ、心身の不調に苦しむ。こうした思いを1、2週間に1度、毎回50分ほどのカウンセリングで和らげる。

白井さんは、大災害などで家族らが行方不明になり、死を受け入れられずに長く苦しむ人を対象とした「あいまいな喪失」のケアにも力を入れる

「臨床心理士は悩む人の伴走者。苦しい場面もありますが横で走り続け、回復というゴールの喜びを一緒に味わいたい」（佐藤光展）

災害下の外国人住民に適切な情報を——「やさしい日本語」の可能性

佐藤和之 / 社会言語学

シノドスジャーナル 2015年09月29日

災下の外国人住民に情報を伝える

東日本大震災が起きたとき、被災外国人に避難や生活や復旧の情報が的確に伝わったかという点、阪神淡路大震災のときや新潟県中越地震のときとほぼ同じ状況にありました。とくに東日本大震災の場合、被災地に住む外国人の国籍は160カ国以上でした（※1）ので、情報をそれぞれの母語で得ることはありませんでした。

（※1）災害救助法適用市町村の外国人登録者数について（法務省）

正確に言うと、英語や中国語や韓国・朝鮮語では伝えたのですが、刻々と変わる情報をそれらであってさえ逐一伝えることはできなかったということです。たとえばその市の担当課に英語の専門職員がいたとして、被災下での外国語対応は、限られた通訳者たちの能力を超えてしまいました。発災直後から外国人住民の安否確認や被災状況の収集に就いてきた彼らですが、さらに文化の違いから生じる日本人では必要としない情報までも翻訳しなければなりません。デマや差別の問題で振り回されないためにです。

外国語ができる職員は著しく疲弊しました。彼ら自身が被災者という事情もあります。ある被災地の例ですが、その国際交流協会に登録している通訳ボランティアは70名いて、東日本大震災が起きて参加できたのは29名（41%）でした（※2）。

（※2）須藤伸子（2011）「東日本大震災の外国人被災者支援—仙台市災害多言語支援センターの活動から」『自治体国際化フォーラム』自治体国際化協会

結果として、外国人に伝わるのは英語であってさえ最大公約数的な情報にならざるを得ず、生活に密着した情報から取り残されてしまいます。英語でも難しいのですから、小さな自治体が多言語対応をできないのは明らかです。

それでは、事前に多言語での情報を雛形として用意しておくことはどうでしょう。次の

文を見てください。

「ตอนนี้คุณไม่สามารถดื่มน้ำประปา กรุณาอย่าดื่มน้ำประปา รอบรรจุทุกน้ำจะมา (タイ語)」

「Agora, você não pode beber a água da torneira. Por favor não beba a água de torneira. Caminhão da água virá. (ポルトガル語)」(※3)

(※3) 日本語での元文は次の通り:いま水道水の飲用を禁じています。水道水を飲用しないでください。給水車が来ます。

皆さんが災害対策本部の担当職員あるいは責任者だったとして、タイ語やポルトガル語を使う被災外国人にこの情報を伝えていいか尋ねられ、混乱する災害対策室での指示に指示できるでしょうか。情報の内容に確証をもてないとき、責任者はこの外国語での掲示を許可することはできません。人命に関わる情報ならましてです。誤った情報が伝わることを避け、外国語では伝えられなくなっていきます。

つぎに、災害の発生直後を想定してみましょう。緊急性の高い情報は掲示物より先に音声で伝えられます。たとえば防災無線や市区町村の広報車、コミュニティFMなどで伝えることを想定しているわけですが、いまはまだ、外国人の多い市区町村でも外国語を使つての避難指示や誘導は行われていません。

外国人住民比率の小ささという理由もありますが、人命の重さに多寡は関係しませんから、もつぱらの理由は日本人の外国語能力の問題に大きく関わっていると思っています。担当職員の行政能力が外国語能力、とくに音声で伝えられる能力と一致することは極めて希ということです。

極端に言って、たとえばニュースを読んでいるキー局のアナウンサーが、突然読むよう指示された日本語以外の臨時ニュース原稿、それがたとえ英語でも「Here's a breaking news. Rescue workers in…」(臨時ニュースをお伝えします。救助隊が・・・)と読み伝えることは至難です。

まして市区町村の広報車や防災無線を使つての外国語による避難指示、避難誘導、注意喚起は、たとえ多言語での避難指示文が用意してあったとしても実施は困難と思います。

唯一現実的な方法は、外国語放送をしているコミュニティFMなどの多言語番組(※4)内で伝えることでしょうか。しかしそれでも番組に参加する外国語話者は多くの場合、その番組の有志ですから、行政が伝えるべき責任の伴う表現を即時通訳で伝えることはできないと思います。

(※4) たとえば次のようなFM局があります。

FM わいわい : <http://www.tccl17.org/fmyy/index.php>

FM ながおか : <http://www.fmnagaoka.com/>

Date FM : <http://www.datefm.co.jp/>

Inter FM897 : <https://www.interfm.co.jp/>

的確な情報を外国人住民に知らせる「やさしい日本語」

ここにもう一つの大きな課題があります。皆さんのコミュニティに複数国の外国人住民がいたとして、何語を使つて彼らに伝えるかです。英語でしょうか、中国語でしょうか。

掲示物の場合は一覧性があるので、被災者の方でそれぞれの母語による情報を選びますが、音声による伝達は、聞き逃したらもう一度その言語の番が回ってくるまで待たねばなりません。

それでは英語で伝えたらどうかとの提案が出ます。先に書いた「被災外国人が英語での情報を必要としていたか」という問題がここにあります。地域社会の次のような現実です。

その県は東北地方に接する関東北部にあつて、東日本大震災のときには地震や福島からの放射能汚染問題を外国人住民にどう知らせるかで苦心しました。その県の外国人人口は県民全体の約2%で、国籍別の上位5比率は、ブラジル(27%)、中国(18%)、フィリピン(14%)、ペルー(11%)、韓国(7%)となっています(※5)。

(※5) 平成25年12月末日における外国人住民数の状況について(群馬県庁)

このような外国人構成の住民に、行政が英語で伝える必然性を見出しにくいことは言うまでもありません。しかも緊急性の高い情報を英語で伝えることは、誰を助けようとしているのか心許ない限りです。

大規模災害発生下で緊急性の高い情報を、様々な外国語を母語とする外国人住民に等しく、かつ的確に伝えるにはどうすればいいのでしょうか。阪神・淡路大震災が起きたとき、このことが神戸で大きな問題になりました。

明治から外国人居留地があった神戸ですので、こういう問題は起きないと思われていましたが、実際に起きてみると多くの外国人が情報を得られず幾重にも被災している現状(※6)がありました。それを知った社会言語学や日本語教育学を専門とする言語研究者が集まって解決法を考えることが始まりました。1995年のことです。

(※6) 真田信治(1996)『緊急時言語対策』の研究について『言語』25-1、大修館書店 江川育志・松田陽子・他(1997)『阪神・淡路大震災における外国人住民と地域コミュニティ』神戸商科大学

まず、情報を得られず困っている外国人はどんな人たちで、言語研究者が手助けできることは何かを考えました。そうしたところ、さまざまな母語をもつ外国人たちですが、救うべきは観光客でなく、被災地で生活する外国人ということに気がきました。また長年日本に住んでいて、上手に日本語を使う外国人もことばが分からず困っている訳ではありませんでした。

困っていたのは、日本に来て1年過ぎくらいまでの外国人でした。それでも彼らは日本で生活していますから、バスに乗ったり買い物をしたりするくらいの日本語は使うことができました。

先に「日本人の外国語能力」ということを書きましたが、災害下で情報を伝える日本人の外国語能力と困窮している外国人の日本語能力を比べると、片言の日本語でも明らかに外国人の日本語能力の方が高いわけです。しかも彼らの母語はそれぞれに違っても、一樣にある程度の日本語が理解できます。

「外国人には外国語で」という伝統的な固定観念から解放されることで解決の糸口が見つかりました。「日本に住んで1年くらいの外国人が使っている語や文法で情報を伝える」方法です。私たち言語研究者はそれを「やさしい日本語」と呼ぶことにしました(※7)。

(※7) 佐藤和之(1996)「外国人のための災害時のことば」『言語』Vol. 25-2、大修館書店

さて、情報の受け手である外国人が「やさしい日本語」で知らされることについての評価ですが、たとえば東京に住んでいる外国人の76%は「日本語でコミュニケーションをとれる」と答え、『やさしい日本語』だと「理解できる」と答えた外国人はさらに多い85%でした(※8)。

(※8) 地域国際化推進検討委員会(2012)『災害時における外国人への情報提供—東日本大震災の経験を踏まえて』東京都生活文化局都民生活部

仙台に住むブラジル人女性は東日本大震災を振り返って「ゆっくり優しい日本語なら、理解できる。『これから、やさしいにほんごでながします』を聞くと安心。」と答えています(※9)。受け手である外国人の8割前後が日本語で大丈夫と言っているのですから、外国人が誤解しないような吟味した日本語で伝えるのが最善ということになりました。

(※9) 仙台国際交流協会(2011)「仙台市災害多言語支援センター活動報告」

また日本語は日本人にとっての母語ですので、日本語が初級の外国人にも伝わるようさまざまに言い替えることは、外国語で伝えようとするより現実的かつ確実でした。

「やさしい日本語」の表現

災害が起きると、防災無線や市区町村役場、消防の広報車、コミュニティFMなどで知らされる「やさしい日本語」で外国人を避難所へ誘導します。日本に来て1年前後の外国人でも、また漢字圏からの、あるいは非漢字圏からの外国人も確実に理解して行動を起こせる表現と読み方にして伝えます。避難所に移ってからは掲示物で知らせます。

そこには日本人用の掲示物もたくさん貼り出されますから、その中であって外国人の目を引くもの、そして日本語だけど読んでみようという気にさせる情報の書き方と表現にします。

「やさしい日本語」は阪神・淡路大震災(1995年/最大震度7)、宮城県北部地震(2003年/最大震度6強)、新潟県中越地震(2004年/最大震度7)、東日本大震災(2011年/最大震度7)のとき、被災者へ伝えられた情報に基づいています。たとえば次の文は東日本大震災のときに使われた避難所への誘導文で、掲示物(書き言葉)でも広報文(広報車やコミュニティFMでの読み言葉)でも使えるよう作られました。

避難所<みんなが逃げるところ>は安全です。避難所はだれでも
 使うことができます。外国人も使うことができます。避難所に行
 ってください。ぜんぶ無料です。お金はいりません
 避難所<みんなが逃げるところ>でできることを知らせます
 ①水や食べ物や情報をもらうことができます
 ②トイレに行くことができます
 ③寝る場所もあります

つぎのものは掲示物での表記法を説明したもので、新潟県中越地震で初めて使われました。

●外国人居住者の目をひくように、見出し語だけは居住者の多い言語で書き込みます


●見出し語は目立つように、大きく書きます

●見出し語は動作を表すことばにし

●絵は重要な要素だけを描きます。必要に応じてイメージを限定するのを添えます

●詳細な情報を載せるときは、行動指示することばを添えます

●情報の出所と掲載日を銘記します。年月日を使います。〇〇/〇〇/〇〇表記にしないでください。

注意 Attention 주의 Atención	注意 Attention 주의 Atención
注意して ください	すること
 <p>長い時間 座っていると 血が 流れにくく なります 急に 死ぬことが あります</p>	<p>血が 流れるように 1. 2. 3. のことを してください</p> <p>1. 足を 動かす ください 1日に 1リットルから 2リットル 飲んで ください</p> <p>2. ときどき 手や 足を 動かして ください</p> <p>3. ときどき 足を マッサージして ください</p>
(作った 日) 年 月 日 (作った ところ) 66	(作った 日) 年 月 日 (作った ところ) 66

いずれも被災外国人が行動を的確に起こせるよう考え出された表現です。これら表現にするための「やさしい日本語」12の文法(※9)や掲示物作成のための正書法(※10)、放送用文の読み方(ポーズのとり方やスピード)(※11)など、さらに災害発生時にそのまま使える「やさしい日本語」マニュアル(※12)や「やさしい日本語」にするとき言い換えをアドバイスするパソコンソフト『やさしい日本語』化支援システム(※13)も開発しています。

(※11) 災害時に外国人にも情報が伝わる放送の読み方スピードの検証結果(弘前大学・社会言語学研究室)

(※12) 増補版『災害が起こったときに外国人を助けるためのマニュアル』(弘前大学・社会言語学研究室)

(※13) 「やんしす」YAsashii Nihongo SLen System(東北大学工学研究科・伊藤研究室)

すでに紙幅を超えましたのでそれらについての説明は避けませんが、下記ページで全ての本体とそうした根拠の確認ができます。いずれも著作権をフリーにしてありますが、公にするときには引用元のクレジットだけ書き添えてください。

<http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/EJ3mokuji.htm>

「やさしい日本語」の理解率と普及状況

ここまで読んでくださった皆さんは、それでは「やさしい日本語」だどのくらい通じるのかを知りたくなったことと思います。そこで最後に、「やさしい日本語」の理解率と普及状況をお知らせして本稿を終えることにします。

まず理解率についてですが、日本に住んで1年くらいの外国人に「やさしい日本語」は通じるのかや、漢字を使う国から来ている外国人と使わない国から来ている外国人がいて、そのいずれにも通じるのか、さらに読みことばでも書きことばでも通じるのかを数量的に示す実験を行いました(※14)。

(※14)『「やさしい日本語」の有効性と安全性検証実験解説書』(弘前大学・社会言語学研究室)

結論だけ示しますが、普通の日本語での情報を聞いたり見たりして正しく理解した外国人は60.5%でした。一方、「やさしい日本語」での同じ内容を正しく理解した外国人は84.9%でした。「やさしい日本語」での情報は普通の日本語より伝わるのが実験によって検証されました。

つぎに普及状況についてお知らせします。2014年4月、内閣府は「日系定住外国人施策の推進について」(※15)で「自治体等に対して、「やさしい日本語」を活用した災害発生時の情報提供方法について習得するためのコンテンツの整備等を行う。」「自治体に対し、地域防災計画において位置付けるなど、「やさしい日本語」の積極的な活用を推奨する。」(以上、4.安全・安心に暮らしていくために必要な施策, 防災・減災のための対策)他を発表しました。

(※15) 日系定住外国人推進会議(2014)『日系定住外国人施策の推進について』内閣府

この施策を受け、気象庁等の関連機関は、2015年3月に多言語で緊急地震速報を伝えられるよう、英語、中国語、韓国語、スペイン語、ポルトガル語と「やさしい日本語」での表現のための多言語辞書を公表しました(※16)。

(※16) 気象庁・内閣府・観光庁(2015)『緊急地震速報の多言語辞書』気象庁

このような「やさしい日本語」で外国人に情報を伝える取り組みは、すでに47都道府県すべてで実施されていて、それらでは防災情報や地域防災計画、避難誘導標識、注意喚起情報、生活情報などを伝えるのに活用されています(※17)。

(※17)『やさしい日本語』に対する社会的評価(弘前大学・社会言語学研究室)

「やさしい日本語」はこのように、日本に住んで1年くらいの外国人なら知っている語や漢字、文構造によって表現されますので外国人によく伝わります。私たち日本人が想像しやすい文でいうと、小学校3年生の国語の教科書で使われている文と似ています(※18)。

(※18)「やさしい日本語」におけるやさしさの基準について(弘前大学・社会言語学研究室)

外国語に親しんだ人でも、情報を外国語に翻訳するときは慎重さが要求されます。しかし「やさしい日本語」の場合、その情報が適切かをすべての日本人が確認できるので誤訳の心配がほとんどないという特徴もあります。

このことに関連し、行政が「やさしい日本語」の採択を検討しり際の参考にして欲しいことが1点あります。それはコミュニティーに住む外国人の多寡に関係なく「やさしい日本語」の導入は効果が期待できるということです。

つまりこういうことです。外国人住民の数が少ないほど、行政はそのために人員を割くことができませんし、外国人ボランティアも支援に入りません。外国人同士の共助も機能しませんから、彼らを救おうとすると地域社会の負担はどうしても大きくならざるを得ません。そんなとき「やさしい日本語」でなら、状況に応じた対応が可能ということです。

きょう、拙稿を最後まで読んでくださった皆さんが「やさしい日本語」で災害時情報を知らせる意義を理解くださり、近い将来、私たちとの協働に参加してくださることを願って話を終えることにします。

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も
大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行

